

デジタル庁HPの「自治体・自治体システムベンダー向けの情報」（2026/1/28時点）
の関連資料を一部編集（仕様の内容は同様）

① 【PMH】自治体ベンダ向け資料

本紙の目的

- PMHに接続するために必要な自治体システム改修の概要をまとめた資料。
- 自治体システムベンダーの皆様向けに本資料とは別紙で仕様書（ファイル設計書、API設計書、エラーコード一覧）を必要に応じてご確認いただきたい。
- なお、現在、デジタル庁HPで公開している説明資料をベースにしているため、令和7年度PMH（医療費助成）先行実施事業参加自治体ベンダを想定した資料としている点に御留意いただきたい。

デジタル庁

ホーム

一般の方

行政・事業者の方

プレスルーム

Language ▾

検索

自治体・自治体システムベンダー向けの情報

- PMHに関する仕様等

PMH（医療費助成）に接続するために必要な仕様等の情報を掲載しています。

- 【PMH】自治体ベンダ向け資料 (PDF／1,204KB) (2025年7月25日更新)
- 【PMH】差分履歴連携仕様について (PDF／1,055KB) (2025年7月25日更新)
- 【PMH】制度関連マスタ説明資料 (PDF／1,726KB) (2025年7月25日更新)
- 【別紙】PMHマスタレイアウト・仕様説明 (Excel／58KB) (2025年9月11日更新)
- ファイル設計書 (ZIP／1,714KB) (2025年7月25日更新)
- API設計書 (ZIP／15,156KB) (2025年7月25日更新)
- エラーコード一覧 (Excel／45KB) (2025年7月25日更新)
- 共通算定モジュールについて (PDF／1,676KB)

←本資料はこちらを編集

Contents

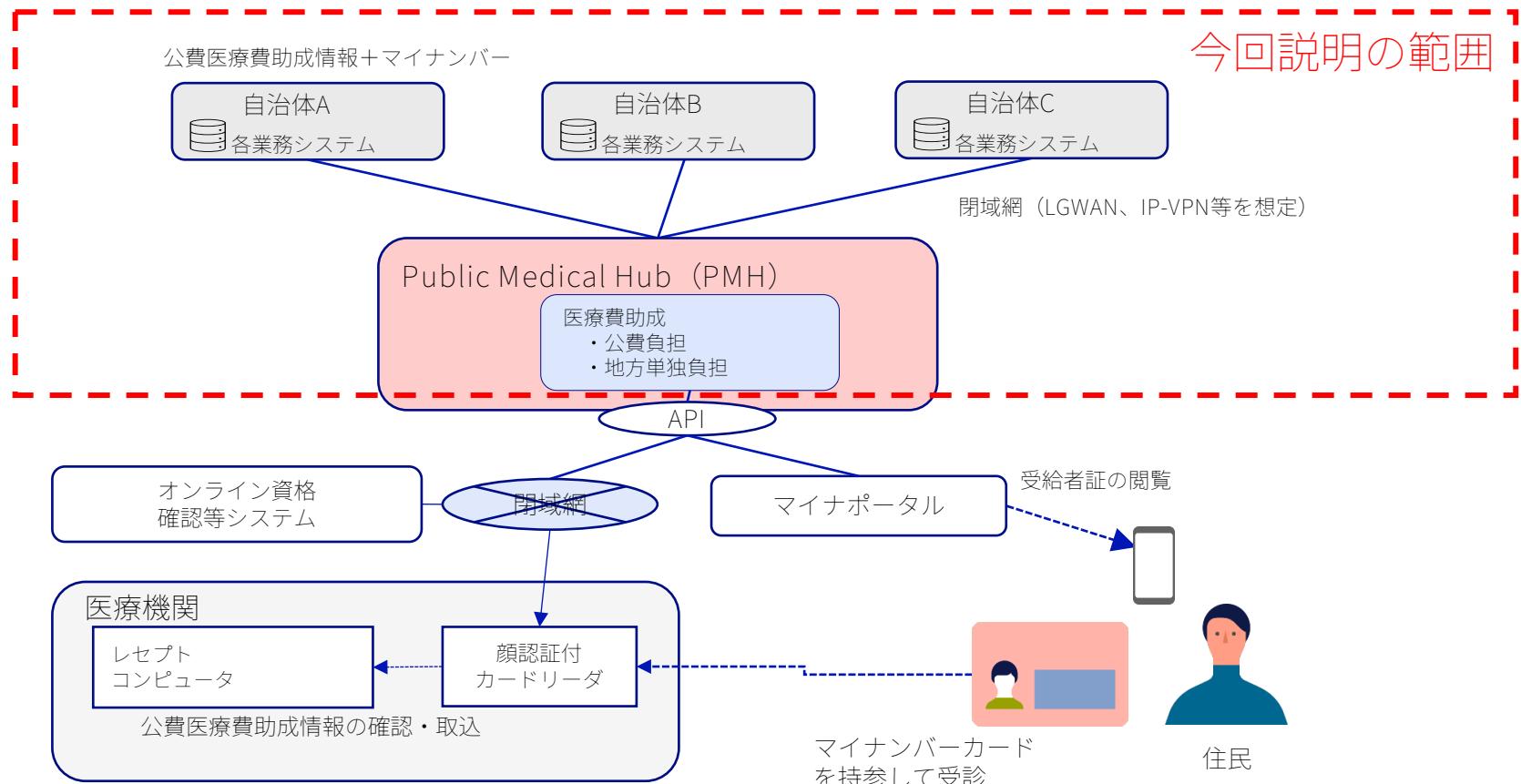
自治体ベンダ向け仕様

スケジュールについて

医療費助成連携用API一覧

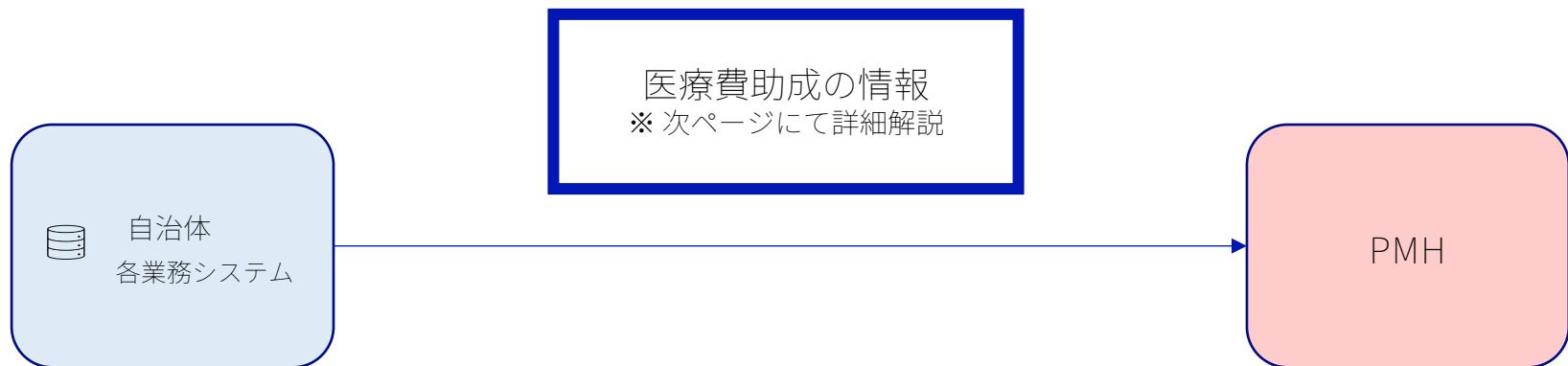
サービス概要図と今回説明の範囲

PMHは医療費助成の受給者証の情報を自治体から医療機関/対象者に渡すためのサービス。今回は自治体の各業務システムから医療費助成に係る情報連携についてご説明。



改修により追加いただきたい機能

医療費助成の情報を定期的（1回/日）にアップロードいただく



医療費助成の情報

おおまかに3種類の情報を登録いただきます

1. 対象者個人に係る情報
2. 受給者証情報のうち、レセコンへ転記している情報項目
3. 受給者証の券面情報をすべて登録するため用いる項目

【不開示フラグ】とは

- ・対象者の情報を不開示にするかを表す。
- ・DVフラグ（支援措置区分）に変わったフラグで、より広い意味での活用を想定したフラグとする。
- ・業務システム上で管理項目を増やすことを必須としません。

対象者個人に係る情報

マイナンバー
氏名
氏名カナ
年齢
生年月日
住所
不開示フラグ

レセコン転記項目

公費負担者番号
受給者番号
...
指定医療機関情報
自己負担上限額
種別
負担定義
負担率（日）
負担率（月）
負担率（回）
金額（日）
...
有効期間-始期
有効期間-終期

受給者証券面項目

受給者証名
公費負担者番号
...
疾病名
指定医療機関名
...

自治体システムの改修方法

改修に必要なリソース/実装のむずかしさに応じて以下の改修方法が選択可能

#	自治体システムの改修方法	改修コスト ※費用は国負担	自治体の 運用の手間	ソフトウェア 保守コスト
1	CSV/JSONの自動API連携（推奨）	△	○	○
2	CSV/JSONファイル出力 (+デジ庁提供のAPI連携バッチ処理の利用)	○	○	△
3	CSVファイル出力※ (+手動連携)	○	△	○
4	CSVファイル出力（+RPA連携）	○	○	△

※CSVファイルの手動編集を連携前に実施する方法でも実現は可能です

#1 CSV/JSONの自動API連携 (推奨)

CSVまたはJSONデータを、PMHのWeb APIに対してシステムより送付

- 1) 自治体システム間データ連携 (マイナンバー/不開示フラグ等が当該システム内にない場合)
- 2) データレイアウトを調整
- 3) PMHのWeb APIに対して送付する



改修コスト ※ 費用は国負担	自治体の運用の手間	ソフトウェア保守コスト
△ 送付処理もシステム上に実装いただく	○ 自動連携のため正常時の手動運用なし	○ 保守するシステムは現状同等

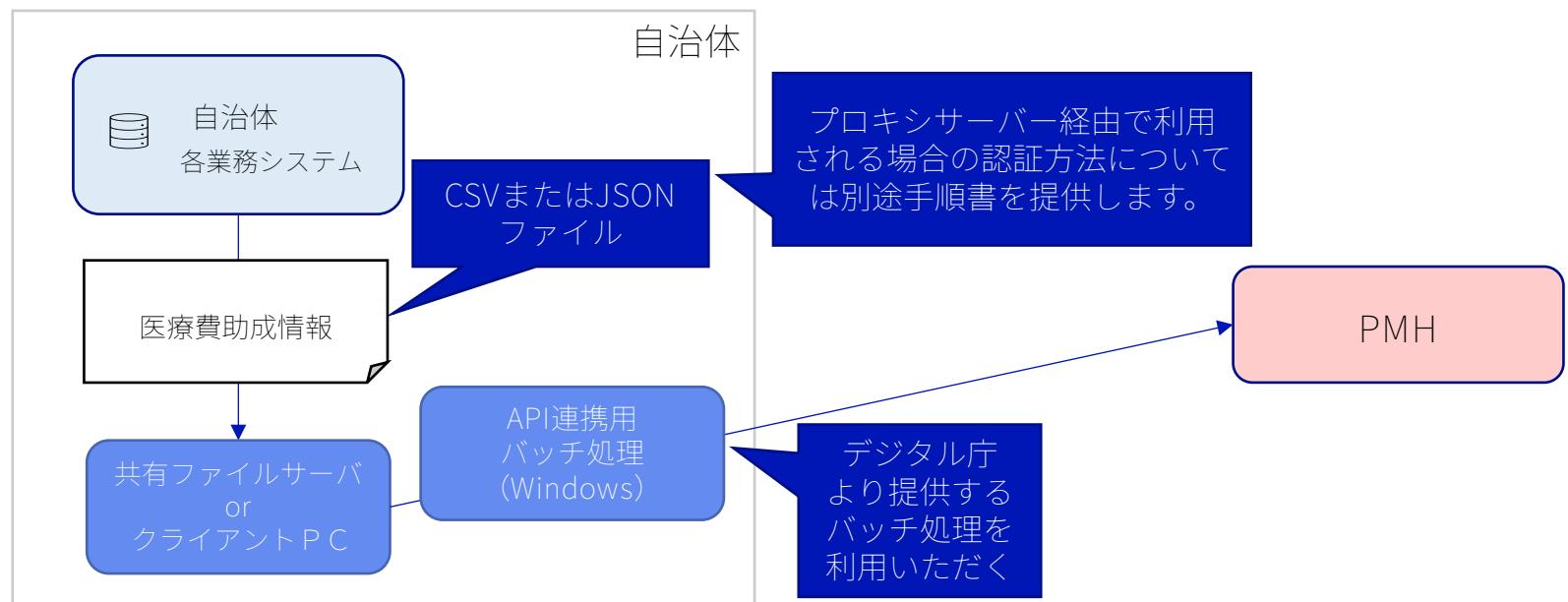
#2 CSV/JSONファイル出力

(+デジ庁提供のAPI連携バッチ処理の利用)

Web APIを利用する事が難しい場合、API連携バッチ処理を提供します。

- 1) 自治体システム間データ連携 (マイナンバー/不開示フラグ等が当該システム内にない場合)
- 2) データレイアウトを調整
- 3) 共有ファイルサーバにファイル出力
- 4) (ファイル連携用バッチ処理を利用して送信)

※本方式で対応する場合は、別紙「API連携バッチ処理手順書」に則り導入いただくことになります

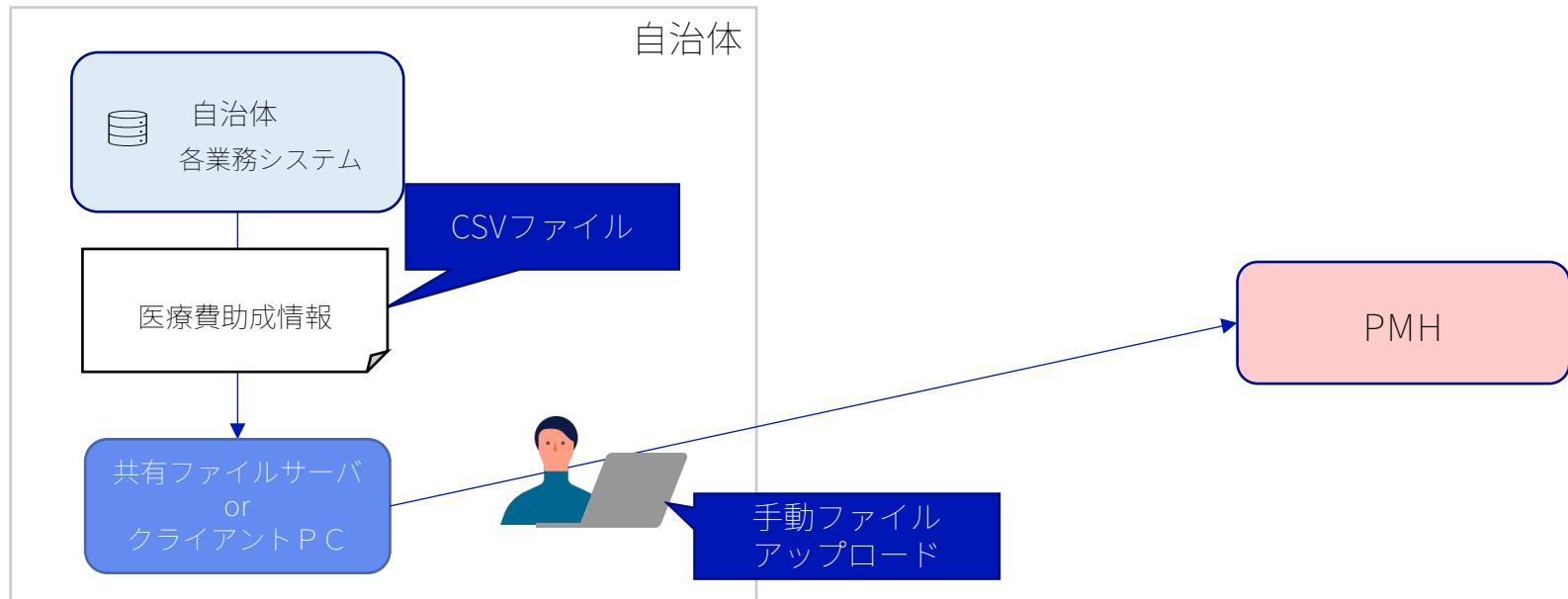


改修コスト ※ 費用は国負担	自治体の運用の手間	ソフトウェア保守コスト
○ 連携は提供した処理を利用する	○ 自動連携のため正常時の手動運用なし	△ バッチ処理の運用が必要

#3 CSVファイル出力（+手動連携）

自動連携が難しい場合、手動連携も可能です

- 1) 自治体システム間データ連携（マイナンバー/不開示フラグ等が当該システム内にない場合）
- 2) データレイアウトを調整
- 3) 共有ファイルサーバにファイル出力
- 4) （PMH画面にアクセスして手動アップロード）

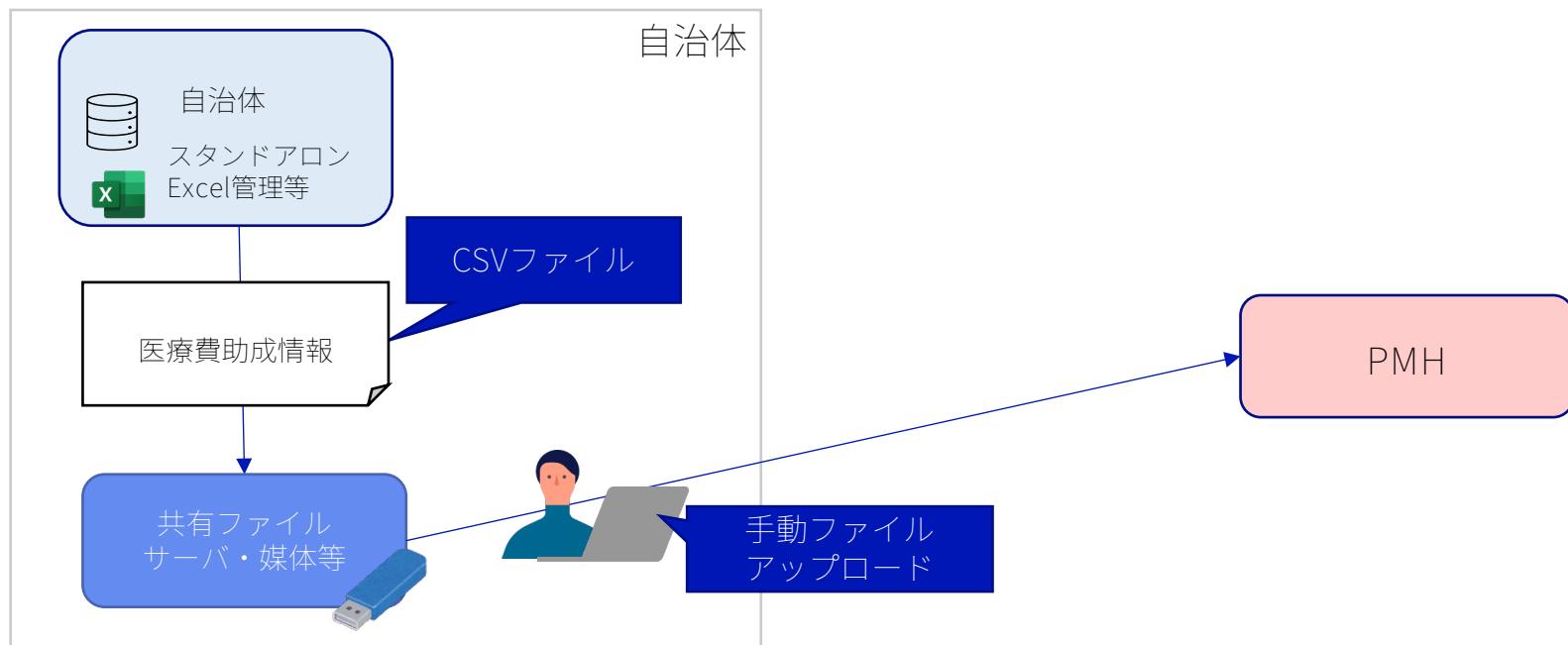


改修コスト ※ 費用は国負担	自治体の運用の手間	ソフトウェア保守コスト
○ 連携処理は不要	△ 手動での連携が必要	○ 保守するシステムは現状同等

CSVファイルの手動編集を連携前に実施する方法

システム化されていないなど、CSVファイルを手動編集する方法も可能です

- 1) 受給者情報に不足データを追加 (マイナンバー/不開示フラグ等)
- 2) データレイアウトを調整してCSVで出力
- 3) 媒体等で移行
- 4) LGWAN環境からPMH画面にアクセスして手動アップロード



改修コスト ※ 費用は国負担	自治体の運用の手間	ソフトウェア保守コスト
○ 連携処理は不要	△ 手動での連携が必要	○ ほぼ既存システムで実現可能

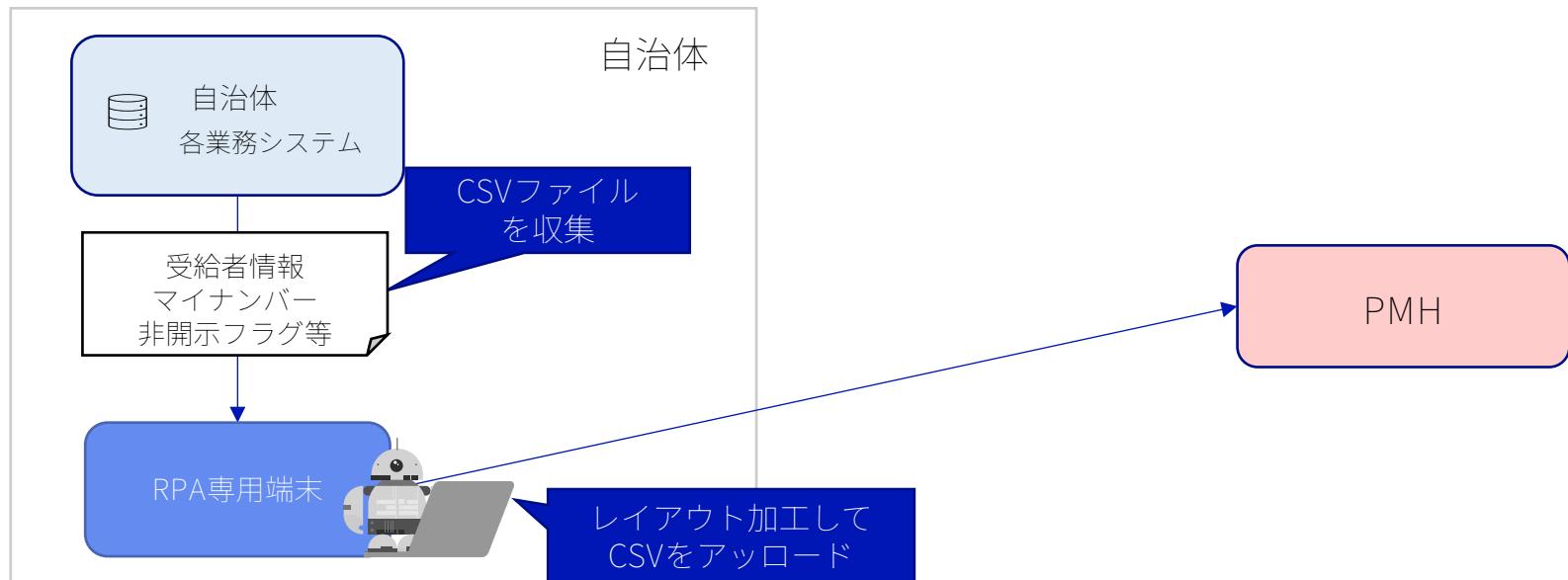
#4 CSVファイル出力 (+RPA連携)

※ 自治体から提案のあった内容で、本内容についても先行実施事業として委託費の対象とすることは可能

RPAを活用した手動連携の自動化も可能です

(番号系にRPA専用端末を設置し、LGWANにアクセスできるようネットワーク設定されている場合の例)

- 1) RPA専用端末からバッチ処理やEUC機能を利用する等により受給者情報等を収集
- 2) RPA専用端末でPMH連携用データにレイアウト加工
- 3) RPA専用端末からPMH画面を開いてアップロード処理



改修コスト	※ 費用は国負担	自治体の運用の手間	ソフトウェア保守コスト
<input type="radio"/>	バッチ処理やEUCがあれば活用可能	<input type="radio"/>	自動連携のため正常時の手動運用なし △ RPAの保守が必要

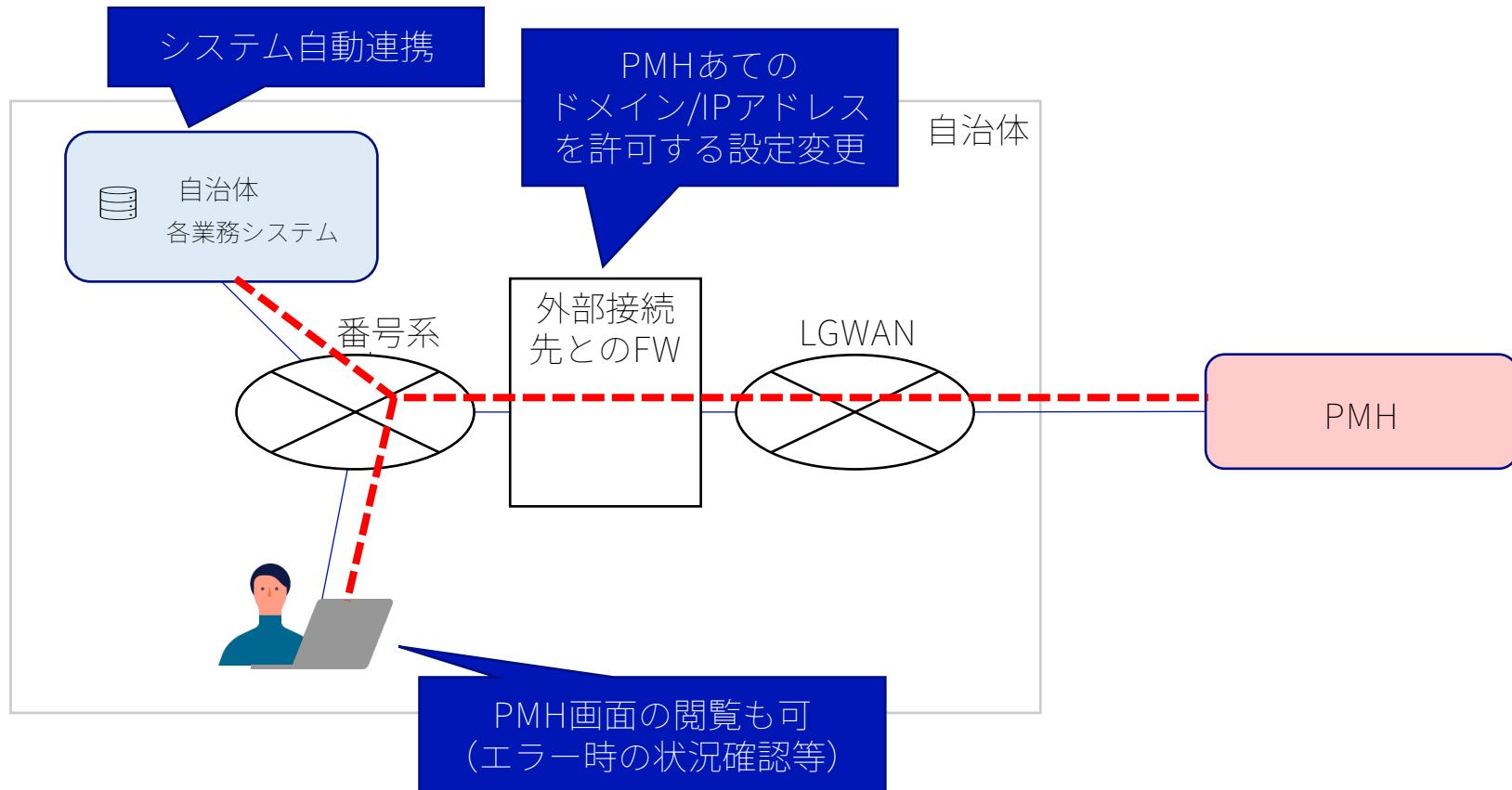
PMHまでの経路

PMHはLGWANから接続できます
ポリシー/改修コスト等の状況に合わせて接続経路が選択可能です。

#	PMHまでの経路	改修コスト	自治体の運用の手間
1	既存ネットワーク設定変更により疎通（推奨）	○	○
2	VPN等で新たにPMHと接続	△	○
3	USBメモリ等で連携（手動連携のみ）	○	△

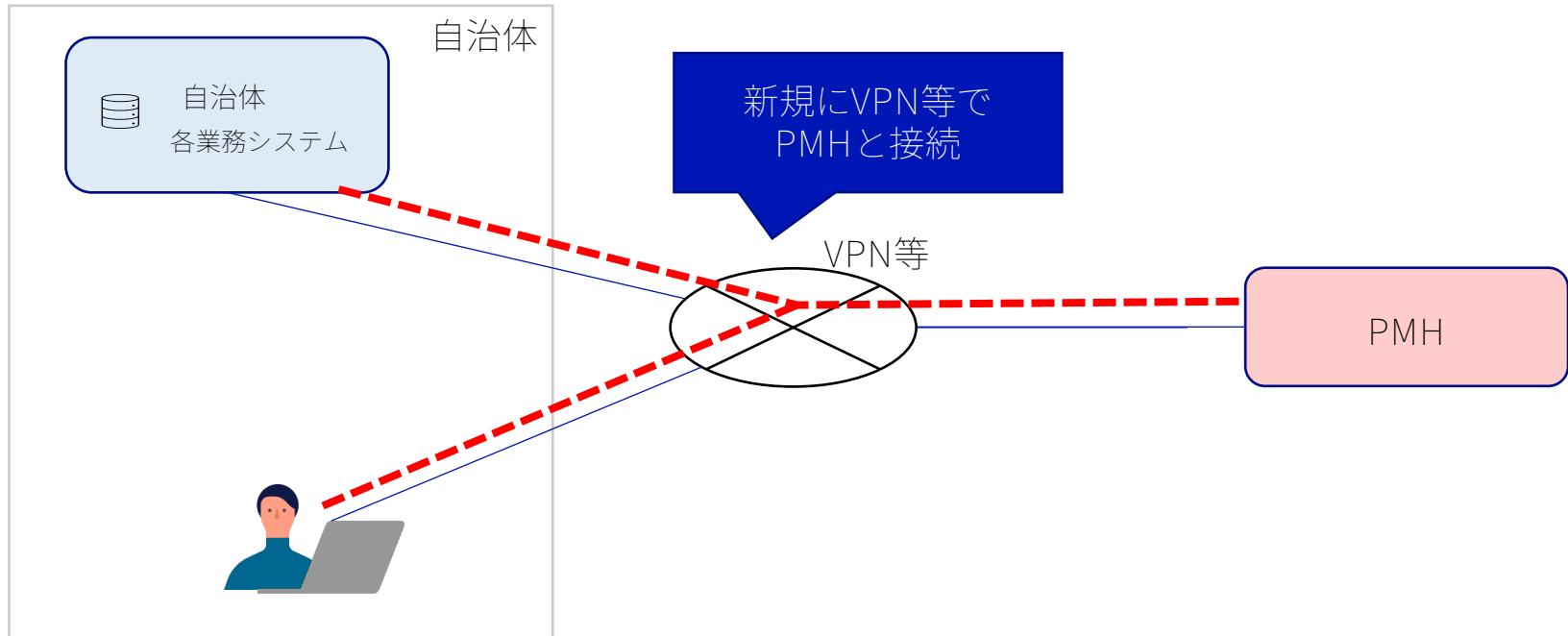
#1 既存ネットワーク設定変更により疎通

番号系からLGWAN経由でPMHにアクセスできるようにネットワーク設定変更



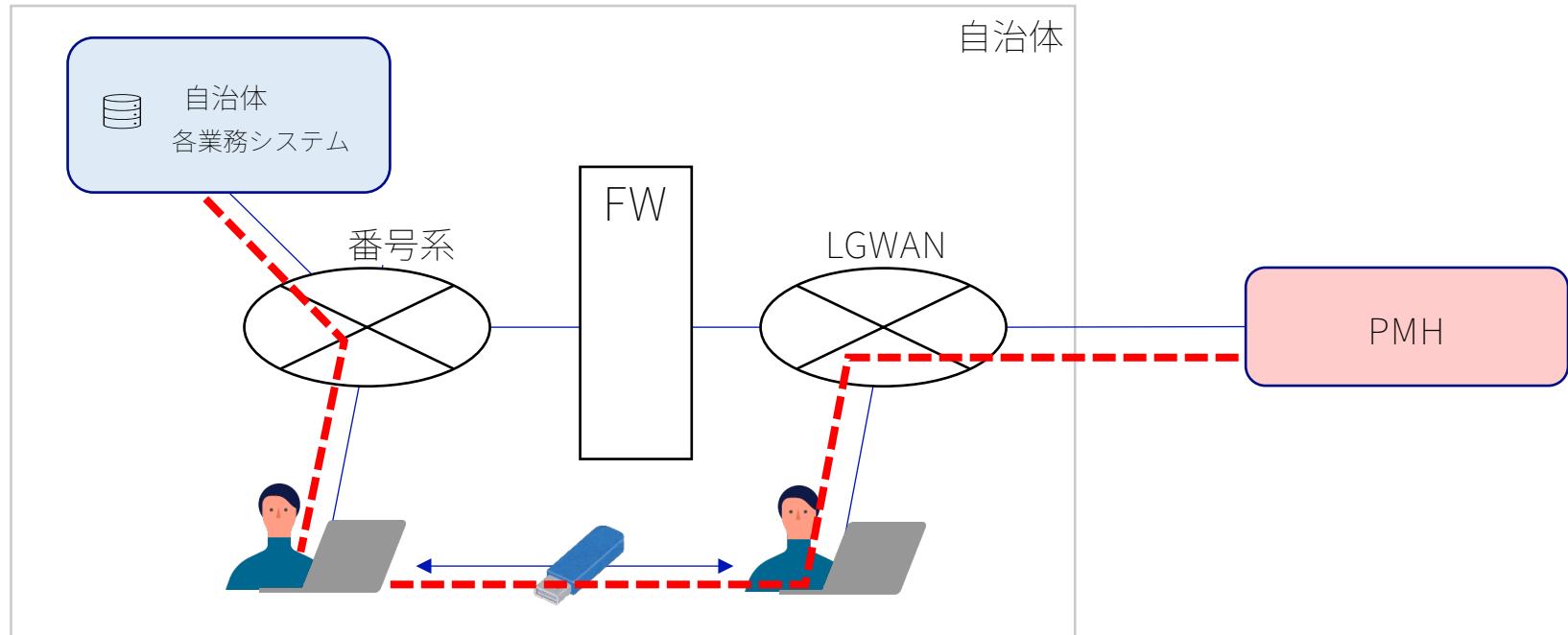
#2 VPN等で新たにPMHと接続

自治体のポリシー上LGWAN経由接続不可の場合でも、個別にVPN等での接続について相談可能です



#3 USBメモリ等で連携（手動連携のみ）

ネットワーク設定変更がどうしても難しい場合、
USBメモリ等での連携も選択可能です。



データ連携方式(差分履歴連携/全件連携)

システム性能や住民数等に応じてデータ連携方式が選択可能です

#	連携方針	差分履歴連携（推奨）	全件連携
1	連携概要	受給者証の情報について、自治体システムで登録および更新が発生した際に受給者証単位で差分連携	受給者証の情報について、有効な情報を自治体システムが選定し、その情報を全件を連携
2	改修コスト	△	○
3	ソフトウェア保守コスト (性能等)	○	△
4	連携頻度	1回/1日	1回/1日
5	連携単位	受給者証単位(※)でその受給者証に含まれるすべての情報 ※個人番号（マイナンバー）、公費受給者証番号、受給者証サブキー(R6年度新設)を受給者証を一意に特定する	自治体システム内で保持する有効な受給者証のデータを全件
6	PMHのI/F仕様 (自治体システムから連携された受給者証のデータに基づいてPMHが取り得る振る舞い)	登録	自治体システムにて登録された受給者証の情報をPMHが履歴情報として取り込む
6		更新	自治体システムにて更新された受給者証の情報をPMHが履歴情報として取り込む
7		削除	自治体システムにて削除された受給者証の情報に対して削除フラグを付与して連携頂き、PMHは履歴情報として取り込む ※自治体システムから連携されなくなった受給者証の情報は削除されたと見做す
8	その他特別な考慮	公費受給者証番号にて受給者証を一意に特定できない場合(公費受給者証番号にて複数の受給者証を管理されている)は、受給者証サブキー(R6年度新設)を付番いただく。	特になし

Contents

自治体ベンダ向け仕様

スケジュールについて

医療費助成連携用API一覧

【参考】 PMHへの接続（テスト・本番リリース）について

R7年度に実施した先行実施自治体のスケジュールは以下のとおりです。

以下の対応事項についてはデジタル庁（またはPMH窓口事業者）から詳細についてご案内予定です。
一部交付決定前から対応可能なものもございますので、早めにご対応をお願いします。

交付決定前に着手できるもの

対応事項4 PIAの実施、対応事項5 条例改正等の対応については交付決定前から着手することができます。
対応完了までに時間を要するものであるため、早めに着手いただくことで今後の運用をスムーズに行うことができます。

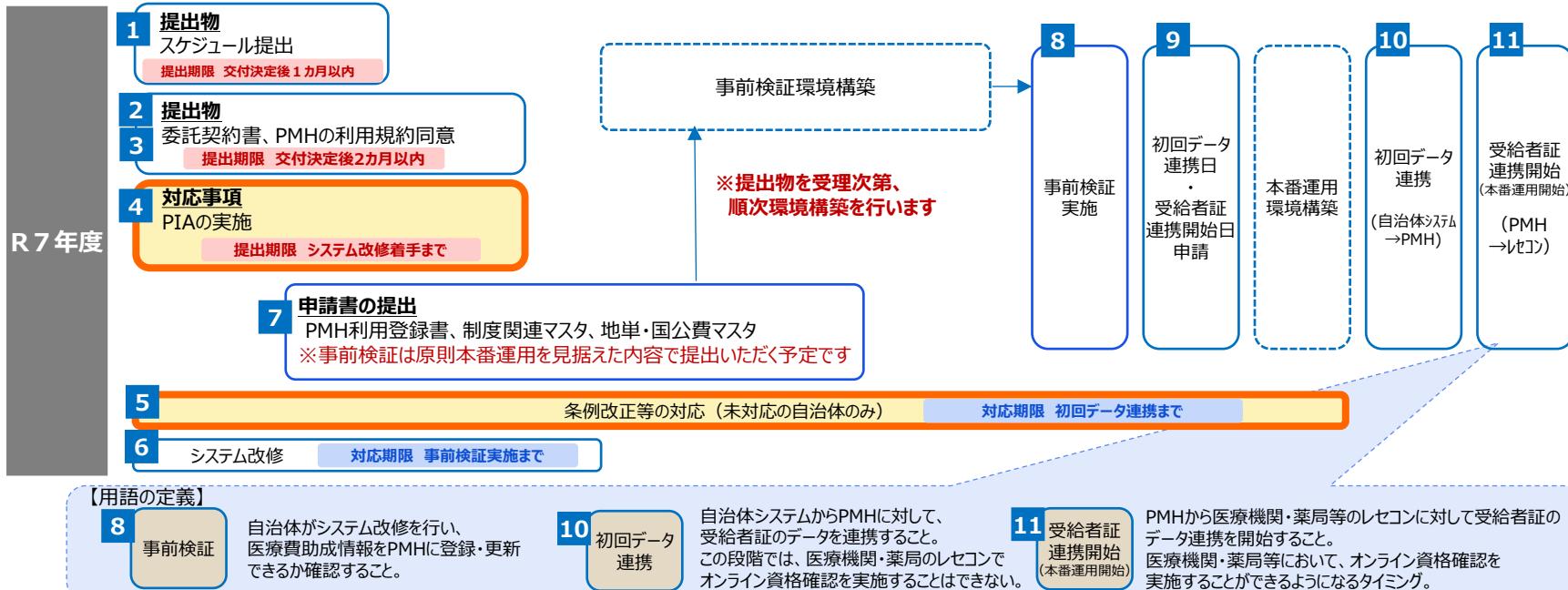
交付決定後～2か月以内

交付決定後～約3か月以内

順次作業

2026年3月末まで

▼交付決定 ▼資料配布



Contents

自治体ベンダ向け仕様

スケジュールについて

医療費助成連携用API一覧

医療費助成連携用API一覧

連携方式	データフォーマット	登録用API	結果取得用API
①全件連携	CSV	SO0G-E01_医療費助成対象者情報登録API（自治体／CSV）	SO0G-E03_医療費助成対象者情報登録結果取得API（自治体／CSV）
	JSON	SO0G-E02_医療費助成対象者情報登録API（自治体）	SO0G-E04_医療費助成対象者情報登録結果取得API（自治体）
②差分履歴連携	CSV	SO0G-E05_医療費助成対象者差分履歴情報登録API（自治体／CSV）	SO0G-E07_医療費助成対象者差分履歴情報登録結果取得API（自治体／CSV）
	JSON	SO0G-E06_医療費助成対象者差分履歴情報登録API（自治体）	SO0G-E08_医療費助成対象者差分履歴情報登録結果取得API（自治体）
③差分履歴連携（リセット有り）※	CSV	SO0G-E11_医療費助成対象者差分履歴情報リセット登録API（自治体／CSV）	SO0G-E13_医療費助成対象者差分履歴情報リセット登録結果取得API（自治体／CSV）
	JSON	SO0G-E12_医療費助成対象者差分履歴情報リセット登録API（自治体）	SO0G-E14_医療費助成対象者差分履歴情報リセット登録結果取得API（自治体）

※前回までの登録情報をリセット（強制失効）させ、連携された情報を登録するためのAPIです。

通常の医療費助成情報の連携では①、②のいずれかを使用します。

③を使用するケースの例は以下の通りです。

1. 全件連携から差分履歴連携への切替時の初回連携
2. 自治体システムのベンダ変更に伴い、履歴一式のキーである受給者証サブキーや履歴キーの採番方法が変更となった場合の初回連携

医療費助成連携用API一覧

連携方式	データフォーマット	登録用API	結果取得用API
①全件連携	CSV	SO0G-E01_医療費助成対象者情報登録API（自治体／CSV）	SO0G-E03_医療費助成対象者情報登録結果取得API（自治体／CSV）
	JSON	SO0G-E02_医療費助成対象者情報登録API（自治体）	SO0G-E04_医療費助成対象者情報登録結果取得API（自治体）
②差分履歴連携	CSV	SO0G-E05_医療費助成対象者差分履歴情報登録API（自治体／CSV）	SO0G-E07_医療費助成対象者差分履歴情報登録結果取得API（自治体／CSV）
	JSON	SO0G-E06_医療費助成対象者差分履歴情報登録API（自治体）	SO0G-E08_医療費助成対象者差分履歴情報登録結果取得API（自治体）
③差分履歴連携（リセット有り）※	CSV	SO0G-E11_医療費助成対象者差分履歴情報リセット登録API（自治体／CSV）	SO0G-E13_医療費助成対象者差分履歴情報リセット登録結果取得API（自治体／CSV）
	JSON	SO0G-E12_医療費助成対象者差分履歴情報リセット登録API（自治体）	SO0G-E14_医療費助成対象者差分履歴情報リセット登録結果取得API（自治体）

※前回までの登録情報をリセット（強制失効）させ、連携された情報を登録するためのAPIです。

通常の医療費助成情報の連携では①、②のいずれかを使用します。

③を使用するケースの例は以下の通りです。

1. 全件連携から差分履歴連携への切替時の初回連携
2. 自治体システムのベンダ変更に伴い、履歴一式のキーである受給者証サブキーや履歴キーの採番方法が変更となった場合の初回連携

デジタル庁
Digital Agency